

本日より弥生三月。天地自然の営みが、風光る春の訪れを予感させる今日の佳き日、多数のご来賓の皆様、卒業生の保護者の皆様のご臨席のもと、令和元年度福島県立梁川高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、私共のこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じます。本校を代表し、深く感謝申し上げます。

高等学校卒業という人生の節目を迎え、未来に向かって大きく羽ばたこうとしている三十七名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本校の校訓である「知性」「誠実」「責任」を拠り所として、「基礎学力の向上」はもとより「進路希望の実現」「人間性・社会性の育成」を標榜する本校の経営ビジョンに沿って日常の勉学や部活動、並びに生徒会活動やボランティア活動を中心に、かけがえのない高校生活を充実させるべく、研鑽の日々を積み重ね、創立百周年を迎えた梁川高校の歴史に新たな一ページを書き加えてくれました。何事にも一生懸命に誠実な姿勢で取り組まれた皆さんの努力に対し、称賛の拍手を送りたいと思います。そして、私たち教職員に多くの感動と、この学校で勤務する喜びを与えてくれたことに対し、心から感謝します。

これは、勿論、皆さん一人一人の精進努力の賜物ではありますが、同時に昼夜を問わず、温かい愛情を持って励まし支えてこられましたご家族や先生方、さらには本校創立以来、ご支援を頂いております多くの方々のお陰でもあります。どうかこの点にも思いを巡らし、報恩、恩に報いる気持ち、感謝の気持ちを忘れることなく、一層の精進を積み重ねるよう期待してやみません。

保護者の皆様、お子様が高校生活を送られた本校での三年間、語り尽くせぬ多くの喜びと多くのご心配、ご苦勞があったことと思います。注がれた惜しみない深い愛情が、ここに実を結び、お子様が高校教育を終えられましたことに対し敬意と感謝の意を表します。

さて、卒業生の皆さん、皆さんの中には、職業人として実社会に入っていく人もいれば、大学や専門学校等の上級学校で新たな学校生活を始める人もいます。どのような道を歩むにせよ高等学校を卒業するということは、あらゆることに自己責任を求められる「大人」になるということを意味します。今までは、皆さんの前には「問題」も「答え」も用意されていました。しかし、これからは「答え」のない「問題」と向き合わなければなりません。「大人」になるためには、まずは、その覚悟を持たなければなりません。その覚悟を持つための大切な儀式がこの卒業式です。

皆さんは、今後、就職や入学に際しての研修やオリエンテーション等で忙しくなると思います。そして、新たな生活に慣れるために覚えなければならないことが多く、また、自分ではどうすることもできないことが自分の身に降りかかってくることもあると思います。しかし、「時間がない」とか「もっと時間があれば、もっとよい仕事ができるのに。もっとよい成績が取れるのに」などと言ってはいけません。「大人」の仕事というのは人によって違いはありますが、悔いの残る、不十分な仕事の連続となることが多いものです。不満だらけで、穴があいたら入りたいくらいの気持ちで仕事を終えている場合もあります。勿論、「不十分なままで仕事を終えていい」と言っているではありません。与えられた環境の中でベストを尽くす、自分ではどうすることもできないことを受け入れ、それでも合格点の結果を出す。これが「大人」の仕事です。

これからは、親に愛される子どもではなく、親に感謝し、親を愛する大人になってください。大人の人生ドラマの幕は切って落とされました。主役は皆さん一人一人です。

最後になりましたが、ご多用の中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様方、本日は誠にありがとうございます。これからも本校にご支援を賜り卒業生、在校生を見守って頂きますようよろしくお願い申し上げます。

それでは、希望に満ちた旅立ちの日に当たりこの学び舎を巣立ちゆく三十七名の前途に幸多からんことを心から祈念して式辞といたします。

令和二年三月一日

福島県立梁川高等学校 校長 高澤正男

※ 以上が本来の原稿になります。昨日は短縮版で行いました。